

外科的閉経となった子宮体がんサバイバーの内蔵脂肪量変化の検討

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-03-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 成味, 恵, 山内, 敬子, 松家, まどか, 幸村, 友季子, 柴田, 俊章, 伊東, 宏晃 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/00004038

第 45 回日本女性栄養・代謝学会学術集会

<一般口演 2>

外科的閉経となった子宮体がんサバイバーの内臓脂肪量変化の検討

1 浜松医科大学産婦人科、2 山形大学産科婦人科

成味 恵

山内敬子 2、松家まどか 1、幸村友季子 1、柴田俊章 1、伊東宏晃 1

【背景】子宮体がん (endometrial cancer; EC) は、罹患者数は婦人科がん中最多であるが、その致死率は低い。米国の報告による EC 罹患者の死因第一位は、EC ではなく心血管疾患 (cardiovascular disease; CVD) であり、その主な原因となるメタボリック症候群の主病態は内臓脂肪型肥満である。一方、女性は血中エストロゲン値が低下する閉経後に内臓脂肪量が増加する。そのため外科的閉経となる EC サバイバーの CVD 死亡率が高いことも妥当と考えられる。しかしながら、EC サバイバーの内臓脂肪量に対する外科的閉経の影響を解析した報告はない。

【方法】本研究は診療録調査による後方視的研究である。2007～2018 年に当施設でがん登録された EC 患者 714 人のうち、術前に未閉経、両側付属器摘出術施行、大網切除術施行なし、病期 I 期、類内膜癌 Grade1～2 の症例を抽出した。抽出された 30 例の術前後の腹部 CT 検査画像から皮下・内臓脂肪面積を測定した。脂肪面積に対する体格の影響を補正するために、[身長 (m)]³ で除した脂肪面積値を比較に用いた。脂肪面積値の変化は脂肪面積値変化率 (cm²) / 身長 (m³) / 月で示した。対象例を術後 HRT 施行群 (8 人) と非施行群 (22 人) の 2 群にわけ比較した。

【結果】年齢は HRT 群で有意に低く、BMI は両群ともに高値であり有意差はなかった。内臓脂肪面積値は術後で有意に増加していた。術前後ともに、皮下・内臓脂肪面積値に両群間の差はなかったが、脂肪面積値変化率は、皮下脂肪において有意に HRT 群で低値であった。内臓脂肪において有意差はないが、HRT 群で面積値の低下を示す症例を多く認めた。

【結論】外科的閉経後に若年 EC サバイバーの内臓脂肪量は有意に増加する。また術後 HRT が、CVD ハイリスク群である EC サバイバーの内臓脂肪量の増加を抑制する可能性が示唆された。